

第8回 群馬県少子化対策推進県民会議 概要

1. 日 時 平成26年8月5日(火) 14:00~15:50

2. 場 所 群馬県庁 第1特別会議室

3. 出席者 県民会議委員 16名

4. 会議内容

(1) 「ぐんま子育て・若者サポートヴィジョン2010」の取組状況について

(2) 群馬県次世代育成支援対策推進行動計画の策定について

5. 主な発言内容

(1) 「ぐんま子育て・若者サポートヴィジョン2010」の取組状況について

- ・「乳児担当保育士加配事業費補助」事業を活用しやすくして欲しい。
- ・スクールカウンセラーが小中学校すべてに配置になったとのことだが、勤務形態が毎日ではない。全校に配置という表現はどうか。
- ・「ぐーちょきパスポート」事業は普及が良い。更に協賛店が増えると、子育て支援として県民の応援になる。
- ・「ジョブカフェマザーズ」と「ジョブカフェぐんま」の違いは何か。

(2) 群馬県次世代育成支援対策推進行動計画の策定について

- ・家庭で子育てする母親をどのように支援していくのか、細かく見ていただきたい。
- ・現行計画の指標のうち県民アンケートによるものは、漠然とした質問である。群馬県は、医療費の無料化や少人数教育の「さくらプラン」等があり、アンケート結果は良くなっているのではないかと期待していたが、常に新しい世代がアンケートに答えていると、子育て支援の制度があっても当然になってしまう。そういう中での評価は難しくなってくる。
- ・新計画と、そのほかの子どもに関する計画との間で調整が必要である。
- ・新計画では、群馬県で少子化対策として何が行われ、利用者がどう感じたかを見ていくと、指標が現実的なものになると思う。
- ・高校生が、小さい子とふれあう機会が少ないのが気になった。小さい子とふれあう機会が持てると良いと思う。
- ・両立支援は、不妊支援を含めて職場の理解を進める環境づくりが大切だ。
- ・結婚支援に取り組んでいるが、非正規就業の男性は、女性の結婚相手に求める条件としてそれだけで対象外の現状である。
- ・結婚支援は、行政と民間とのつながりができると事業が広がるのではないか。
- ・結婚支援が補助事業になるとありがたい。出会いの場づくりを支援するしくみが必要なのではないか。
- ・養育里親の確保が難しい。家庭的養護の中で、父親・母親の役割が身につく。里親支援を強化して欲しい。
- ・結婚、妊娠、出産に関わることは、強制になってはいけない。あくまでも個人の希望で出会いの機会をどうつくるか、個人の希望で生まれたお子さんをどう支援していくかを考えていかなければならない。